

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	3	実施計画番号	120		
事務事業名	6次産業化の促進		事業開始年度	25	
担当課名	とわだ産品販売戦略課		事務の種類(選択)	自治事務	
根拠法令等			関連事務事業		
背景や経緯等	全国的に6次産業化への取組みが推進される中、6次産業化法に基づく総合化事業計画の市内事業認定者は、平成24年度まで1件のみであった。他地域に自慢できる「食材の宝庫」である十和田市として、地域資源を活用した農業者等による新事業の創出及び農林水産物の利用促進は、農業及びそれを取り巻く地域産業の発展において、今後、市がその取組みに対して支援していくことの重要性は極めて大きいことから、平成25年度から実施しているものである。				
事務事業の目的	6次産業化を地域に定着させて、生産量の増、農業所得の向上、雇用の創出等から、地域経済に貢献できる農業を推進する。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化認定に向けた実践サポート(総合化事業計画作成指導等) ・取組み促進のためのセミナーの実施 ・取組み促進のためのハード(施設、機械導入等)・ソフト(商談会出展、先進地視察旅費)に係る補助(事業費の1/2以内) 				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	244	243	243
	人件費(千円)	17,568	17,496	17,496
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
パートタイマー	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	9,407	7,944	18,250
うち一般財源	9,407	1,899	18,250
うち国県支出金		6,045	
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	6次産業化セミナー(勉強会)参加者				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		事業者/回	10	13	13	
	活動指標名②	6次産業化推進シンポジウム参加者				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		人	92	100	100	
成果指標	成果指標名①	6次産業化認定事業者				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		事業者	目標値	1	1	1
			実績値	2	1	
			達成度(%)	200%	100%	
		成果指標名②				
		計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	3
計画No	120

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 特になし。
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 地域内連携による6次産業化の取組みにより成果は向上すると見込まれる。
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 成果を向上させるための必要性を重視していることから、効率的なコストで実施している。
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 特になし。
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	19 / 20	改善の余地 1 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **さらに重点化を図る**

方向性の理由 ・地域内で6次産業化への関心度が高まっていること。 ・総合化事業計画の認定を目指す事業者が増えていること。 ・認定事業者の計画目標達成率が堅調であること。
今後の具体的な取組方策と狙う効果 ・地域内における加工拠点施設の整備。 ・地域内連携による6次産業化の促進。 ・認定事業者の増。

6次産業化の促進

1. 経緯

〇市は、6次産業化を地域に定着させて、生産量の増、農業所得の向上、雇用の創出等から、地域経済に貢献できる農業を推進するため、「6次産業化促進支援事業」を、平成25年度から特別枠予算により、(株)パワフルジャパン十和田に業務委託して実施している。

〇認定事業者数の推移

認定事業者件数	全国	東北	青森県	十和田市
平成25年10月31日現在	1,681	295	52	1
平成26年10月31日現在	1,976	312	65	3
平成27年11月10日現在	2,121	332	65	3

2. 実績

(平成25年度)

〇予算額 11,640千円 (委託費7,640千円 補助金4,000千円)

〇決算額 9,803千円 (委託費7,640千円 補助金2,163千円)

〇啓発活動

・ポテンシャル調査 4事業者 (日々木、(株)おいらせ大地、(株)グリーンソウル、(有)みのる養豚)

・生産者、加工事業者、販売事業者等を対象にグループワークを開催

(農閑期である1～2月に若手農業者及び産直の生産者対象で実施)

・6次産業化の方策等の勉強会 1ヶ所全5回×2ヶ所 1回の参加者15～20人

〇育成活動

・モデル事業計画・立案 2カ所 (烏骨鶏、養豚からの6次産業化への取組み)

・補助事業 (チャレンジ助成)

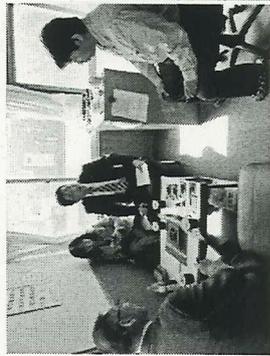
決算額2,163千円 (ハード助成：2,000千円、ソフト助成：163千円)

〇認定に向けた実践サポート 25回 (随時実施中)

〇6次産業化推進セミナー開催 H26.3月開催 (参加者100名)

〇6次産業化法に基づく総合化事業計画の認定 H26.5.30付で2事業者が認定事業者となる。

・(株)おいらせ大地 ・(特非) 農楽郷 hibiki



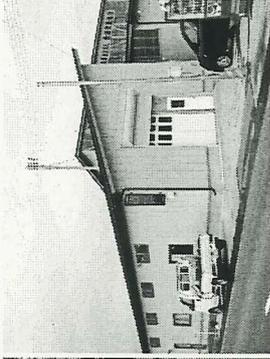
(ポテンシャル調査)



(勉強会)



(グループワーク)



(ハード整備)

(平成26年度)

○予算額 10,950千円 (委託費6,950千円 補助金4,000千円)

○決算額 9,407千円 (委託費6,950千円 補助金2,457千円)

○6次産業化認定に向けた実践サポート

・総合化事業計画作成指導：十和田乗馬倶楽部（羊の肉加工・販売、食、観光体験等）

・認定事業者へのサポート：地域ネットワーク活動交付金要望に係るサポート（県へ提出）

○認定事業者となるための育成活動

・セミナーの実施：前期5回（受講者55事業者）、後期3回（受講者28事業者）※平均10事業者/回

・取組みモデル規格・立案作成

・チャレンジ助成（補助金）：ハード1件（農楽郷 hibiki）、ソフト2件（おいらせ大地、農楽郷 hibiki）

○全体活動

・「6次産業化推進シンポジウム」開催

H26.11.10（月）参加者92名

基調講演、パネルディスカッション、加工品PRコーナー、取組み・ファンド相談コーナー



(シンポジウム開催記事)



(認定証交付式)

- (平成27年度※11月まで)
- 予算額 9,900千円 (委託費5,400千円 補助金4,500千円)
- 6次産業化認定に向けた実践サポート
 - ・総合化事業計画作成指導：(株)漆畑ファーム (牧草・畜産・精肉の加工・販売等)
 - ・認定事業者へのサポート：商談会への出展 (東京都「食のショールーム・パルズへ(株)おいらせ大地・農楽郷 hibiki)
- 認定事業者となるための育成活動
 - ・セミナーの実施：前期3回 (受講者46名)、後期2回 (H28.1・2月予定) ※平均13事業者/回
 - ・取組みモデル規格・立案作成
 - ・チャレンジ助成 (補助金)：ハード1件 (株)漆畑ファーム)、ソフト1件 (農楽郷 hibiki)

○認定事業者の目標達成率 (下表参照) は、中長期的なスパンで検証。

事業者名	売上高 (千円)		達成率	計画期間
	目標	実績		
農事組合法人 赤沼宮農組合 (H24.2.29 認定)	4,470	2,670	60%	H26.12 まで
(特非) 農楽郷 hibiki (H26.5.30 認定)	980	36	4%	H29.3 まで
(株)おいらせ大地 (H26.5.30 認定)	37,200	21,893	59%	H28.12 まで

3. 見えてきた新たな課題

- 商品開発に伴い、レトルト加工、加熱充填等が市内にない。
 - 弘前市内事業者等に委託。
 - 市内にお金不落ちない。
- セミナーを通して、意識が高まりつつあることから地域内連携による6次産業化への取組のトータルマネジメントが必要。
- 国の支援内容が厳しい状況となっているため、認定事業者が事業を促進させる支援体制が必要。
- 補助や融資に関する事業計画立案・作成力が低い。
- 販路開拓
 - 積極的な事業者は、販路拡大に繋がっている。

4. 課題を解決するための対策

- 経営力指導支援
- ハード・ソフト整備に係る支援
- 地域内連携による6次産業化の必要性

- 廃校・廃施設の有効活用による6次産業化の取組推進
- 海外輸出を視野に入れた販路開拓

5. 平成28年度事業の内容

平成25年度からの事業内容における課題を解決して、6次産業化の促進を図る。
イメージは、別添のとおり。

【H28年度までの事業認定者数目標値】5件

(H24年度：1件、H25年度：0件、H26年度：2件、H27年度：1件、H28年度：1件)